

非同期で動的な Webアプリケーションの 基礎

● 葛西 秋雄 KASAI, Akio

はじめに

あなたはAjaxを実装するとJavaScriptを記述するので保守性が悪くなる、またブラウザの互換性を検証しないといけないのでテストが大変だと思いませんか？

AtlasはASP.NET 2.0のWebアプリ

ケーションに、Ajaxを実装するためのフレームワークで、クライアントとサーバーフレームワークから構成されています(図1)。Atlasのサーバーコントロールを使用すると、JavaScriptを1行も記述することなくAjaxを実装することができます。つまり、JavaScriptレスでAjax対応のWebアプリケーションが開発できるため保守性、ブラウザの互換性の問題から解放されます。

本稿では、無償で提供されているVisual Web Developer 2005 Express Edition(以下VWD)にAtlasをインストールしてAjax対応のWebアプリケーションを作成する手順を解説します。また、Ajaxを実装するとユーザーにど

のような恩恵があるのか各種サンプルを通して具体的に説明します。

Atlas April CTPのインストール

それでは早速、本稿執筆時の最新版Atlas April CTP(Community Technology Preview)をダウンロードしてVWDにインストールしてみましょう。

まずはマイクロソフトのAtlasのサイト(<http://atlas.asp.net/>)からダウンロードページに移動し、[Download]ボタンをクリックしてAtlasのセットアップファイル「AtlasSetup.msi」をローカルディスクに保存します(図2)。

レベル >>> Level

1 2 3 4 5

言語 >>> Language

■ C#

ツール >>> Tool

■ Visual Web Developer 2005 Express
■ Atlas CTP April

サンプル >>> Sample

この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、<http://www.shoeisha.com/mag/windev/>からダウンロード可能です。

図1: ASP.NET 2.0 Atlasのフレームワーク

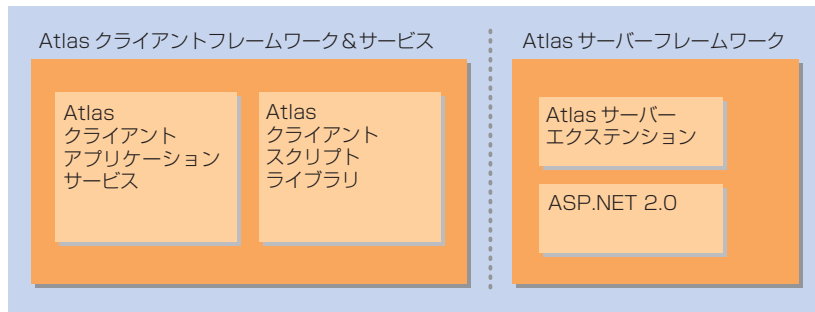
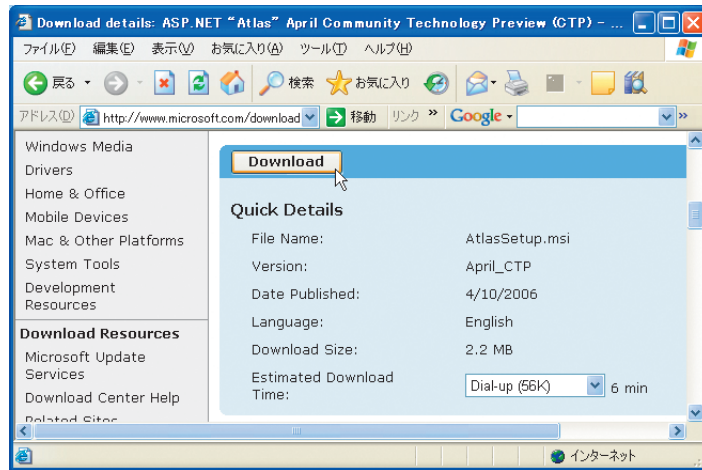


図2：Atlas April CTPのWebサイト



ダウンロードが終了したらダブルクリックして起動します。セットアップウィザードが起動するので、指示に従って [Next] ボタンをクリックするとインストールが開始されます。

インストールが完了すると「C:\Program Files\Microsoft ASP.NET\Atlas\v2.0.50727\Atlas」フォルダに、

- ・ Microsoft.Web.Atlas.dll
- ・ Debug/Release用のスクリプトライブラリ

が作成されます (図3)。また、VWDの「マイテンプレート」にはAtlas専用のテンプレートが追加されます。

AtlasのWebサイトを作成するにはVWDの「ファイル」メニューから「新しいWebサイト」を選択します。「新しいWebサイト」が表示されたら、

- ・ テンプレート：「ASP.NET Webサイト」
- ・ マイテンプレート：「"Atlas" Web Site」

を選択します (図4)。

[OK] ボタンをクリックするとAtlas対応のWebサイトが作成されて、ソリューションエクスプローラにApp_Data、Binフォルダが表示されます。BinフォルダにはAtlasのアセンブリ「Microsoft.Web.Atlas.dll」が格納されます。Web.configファイルにはAtlasに必要なシステム構成が自動的に追加されます (図5)。

すでに作成済みのASP.NETサイトにAtlasを組み込むにはBinフォルダを作成して「Microsoft.Web.Atlas.dll」をコ

図3：Program FilesにAtlasがインストールされた

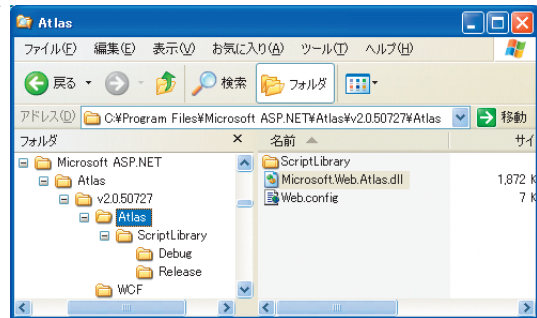
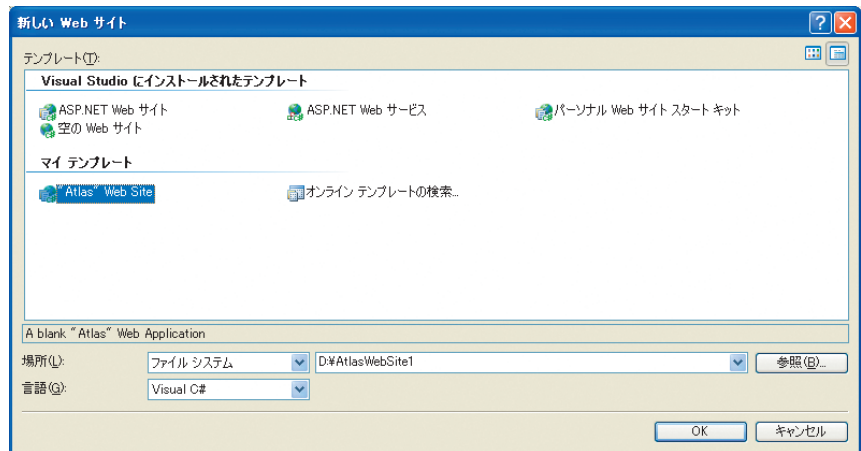


図4：「"Atlas" Web Site」を選択



ピーします。そして、Web.configファイルの「<configuration>...</configuration>」にAtlasのシステム構成要素 (リスト1) を追加することで、Atlasの機能を使用できるようになります。

図5：Atlasを使用した新規Webサイト

